

数学・理系 — 岡山大学 2026 年入試問題分析 — **岡山進研学院**

全体講評： 今年は大問 1, 2 が軽めで 3 が標準的、4 が難問であった。理工系の人は 1, 2 を確実に取り、3, 4 で出来るだけ部分点を稼ぎたい。医歯薬系の人は 4 の出来で明暗が分かれることになるだろう。問題が易から難へと並んでいたのが前半で時間を節約し、4 の論証にしっかりと時間をかけていければといったところであった。試験では共通テストも含めて時間の使い方が大切である。		試験時間 120 分		
		難易変化 易化 / やや易化 / <u>例年並</u> / やや難化 / 難化		
		分量変化 減少 / やや減少 / <u>例年並</u> / やや増加 / 増加		
大問	区分	内容	講評	レベル
問 1	数 C	平面ベクトル	問題としては簡単で (1) では、1 次独立またはメネラウスの定理のいずれを用いても良い。(2) も円のベクトル方程式の知識は不要。	★
問 2	数 A	確率 (点の移動)	これも取り組みやすい問題であった。ただし自分の考えが明快に伝わるような丁寧な答案を仕上げたい。題材は面白いので違った設定等で問題を研究してみるのも良い。	★
問 3	数 II, B, C	複素数 数学的帰納法 三角方程式	(2) のド・モアブルの定理の証明は今後も他大学で出題されると思われる。(3) で三角関数の和積公式を覚えていない人は試験場で導出できるようにしておきたい。	★★
問 4	数 III	微分法の応用 (不等式証明, 共有点の個数)	(2), (3) は構想力や論証力を問われる難問である。試験場では相当大変であったろう。その中でも 2 曲線 C と D が互いに偶関数であることなどをうまく利用したい。	★★★
学習指針： 今年は問題ごとの難易度の差が大きかった。至極当たり前のことを言うともこの場合は難しい方の問題に合わせた勉強が必要である。岡山大学レベルになると簡単な問題ではあまり差がつかない。従って今年の大問 1 や 2 に合わせてはいけない。3 や 4 にしっかり対応出来る対策が必要である。難関大学と呼ばれる大学の入試問題にも積極的にあたっておきたい。また記述力を高める勉強も欠かせない。		※ 難易変化、並びに分量変化は対例年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★★★ やや難 → ★★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)		